

J Aわかやまの概要と多様な取り組み ～地域に根差した食農教育～

わかやま農業協同組合
営農生活部 営農指導課
田中 敦幸

◎ J Aの営農指導事業・営農指導員とは？

農業経営の技術・経営指導、農産物市場の情報提供、新しい作物や技術の導入等、**組合員の営農支援のための活動**。

そのなかで、農業の技術、経営や農産物販売について**農家の相談相手**になり指導を行うのが、J Aの**営農指導員**。

「営農指導員はJ Aの幹」と言われるように、**営農指導員はJ Aと農家を結ぶパイプ役**として重要な役割を果たしている。

具体的な営農指導

- ① 稲作の栽培技術・経営の指導
- ② 畜産企画業務（地域農業戦略の策定、農地利用調整、生産部会活動支援）
- ③ 使い手農業者の育成・確保
- ④ 地域保全型農業の推進
- ⑤ 安全・安心な農産物の生産指導
- ⑥ 食と農を基盤とした地域活動（食農教育） etc.

◎ 和歌山市の農業の特徴

- (1) 都市近郊型農業
高速道路などの交通網が整備 → 京阪神市場への距離が近く産先に有利。
- (2) 農産物の栽培に適した気象環境
湖内気候で、比較的雨が少なく温暖 → 農産物の栽培に好適。
- (3) 都市近郊農業者の多さが課題
 ① 紀の川流域の水田地帯の水稻・野菜
 ② 海岸沿いの徐地帯の野菜
 ③ 東部の山間地帯の果樹

農産物栽培面積 上位

1位 豆乳蕃 1,400ha
2位 みかん 300ha
3位 キャベツ 130ha
4位 白菜 65ha
5位 だいこん 60ha

(水稲)
（水耕）
（有子園）
（無機質）

農産物販売額 上位

1位 豆乳蕃 13.7億円
2位 みかん 11.0億円
3位 キャベツ 5.9億円
4位 白菜 4.5億円
5位 はくさい 3.6億円

（年成27年度）

協同組合と株式会社の違いについて

- ▶ 株式会社・・・利益追求
- ▶ 協同組合・・・組合員・利用者の幸福、満足度の追求
- ▶ 相互扶助の精神・・・互いに助け合う

J Aわかやまについて

- ▶ 代表理事組合長 坂東 記好
- ▶ 組合員数 正組合員8,093人 準組合員 23,283人 合計 31,376人
- ▶ 職員数 正職員 323人嘱託・契約・パート職員 36人 合計 359人
- ▶ 出資金 4,598百万円
- ▶ 資金 349,092百万円
- ▶ 貸出金 64,299百万円
- ▶ 長期共済保有高 481,790百万円
- ▶ 販売高 3,421百万円
- ▶ 購買品供給高 1,921百万円

平成30年度実績（2018年7月より）

▶ 本店所在地 和歌山市栗栖642

JAわかやま本店

JAビル

▶ 紹和歌山県 8JA
紀北かわかみ・紀の里・ながみね・ありだ・紀州・紀南・みくまの

（年成30年度実績）

J Aわかやまの経営理念

「食と農を通じて輝く未来を志向し、組合員・地域と共に歩むJAわかやま」

J Aわかやまの事業について

- ▶ 安心して暮らせる事業を展開

支店数 19支店
渉外 75人
○ 信用事業

- ・農業のメインバンクとしてだけではなく地域のメインバンクとしての役割
和歌山県信用農業協同組合連合会・農林中央金庫

○ 共済事業

- ・「ひと・いえ・くるま」の総合保障を提案し、組合員・利用者が将来にわたり安心して暮らせる事業を展開
全国共済農業協同組合連合会
※平成30年9月 台風21号（和歌山・大阪・愛知ほか）
198,392件 954億円

経済事業

- 営農・生活指導事業
 - ・地域の農業振興・農業経営の相談や栽培技術のアドバイス
 - ・食と農の大切さを伝える食農教育
 - ・地域貢献活動など
- 販売事業
 - ・農産物の集出荷、直売所での直接販売
- 購買事業
 - ・組合員・利用者の必要な「もの」を供給

- 経済店舗及び施設
 - ・営農センター（西部・北部・中央・南部）
 - ・育苗センター（名称：グリーンステーション）
 - ・農機センター
 - ・ライスセンター
 - ・農産加工センター
(金山寺みそ・ジャム・生姜の佃煮・切干大根の製造)
 - ・給油所
 - ・農産物直売所（名称：愛菜てまりっこ）5か所

○農家所得の向上

- ▶ 基幹品目の面積拡大
 - 新ショウガ・ダイコン・キャベツ・ハクサイ
・ブロッコリー・イチジク等
- ▶ 安全・安心な農産物の安定供給
- ▶ 農業体験農園の支援
和歌山大学と共同研究

地域と共に

- ▶ 食農教育 ※「JA/バンク協調型事業」の活用
 - ・学童農園（田植・稲刈り）
 - ・バケツ福作りの紹介、提供
 - ・野菜栽培体験学習（ダイコン・ブロッコリーの袋栽培）
 - ・出前授業（調理実習、農作業の講話）等

5月 収穫体験(ジャガイモ)

6月 田植え体験

7月 収穫体験(トウモロコシ)

8月 景観作物(ヒマワリ)

9～10月 収穫体験(水稻)

11月 収穫体験(みかん)

12月 餅つき体験

1～2月 収穫体験(ブロッコリー・ダイコン)

3月 野菜袋栽培体験学習(ブロッコリー・ダイコン)

▶ 農商工連携
生姜丸絞りわかやまジンジャーエール
(平成22年販売開始)
・ANA機内販売、郵便局
・年間売上 100万本
・平成23年 一村逸品大賞受賞
・キリンビール(株)・日本バーテンダー協会と連携し
「和歌山モスコミュール」誕生

【商品ラインナップ】
梅ひと季・桃ほのか・じゃばらしみ透る

※平成30年 吉本興業・しげぞうとコラボ
「しげジンジャー」の発売

▶ 地域貢献活動
► 食農フェスタ 和歌山城砂の丸広場で開催
【目的】楽しく食と農について考えるきっかけ作り。和歌山の農業
や商工業の重要性と地産地消にふれ、元気なJAわかやまと和歌山市への
親しみを深める。
平成25年 JAわかやま20周年記念
東京ディズニーリゾート・スペシャルショー

- ▶ クリーンウォーク JA施設周辺道路の清掃活動
- ▶ 花いっぱい運動 和歌山市へ花苗無償提供
JA本店横の県道沿いへの花の設置
- ▶ こども広場の開催 (和歌山医療生協と連携)

- ▶ 紀州踊り「ぶんだら節」への参加
令和元年度 約400人 役職員・関係組織



- ▶ JAわかやま杯サッカー大会の開催
- ▶ 交通安全運動 交通安全教室の開催
電光掲示板の設置
- ▶ 女性大学
- ▶ 男の料理教室
- ▶ その他色々な取り組み

最後に JAの役割とは

- ▶ 農家所得の向上 → 農業振興
- ▶ 食農教育の推進 → 地域活性化
- ▶ 積極的な地域活動 → 地域貢献

ご清聴ありがとうございました。

JAの活動は、主に以下の3つです。

- ・農家の収入確保
- ・食農教育の実践
- ・積極的な地域活動

JAの活動は、主に以下の3つです。

- ・農家の収入確保
- ・食農教育の実践
- ・積極的な地域活動